

東北地方 1か月予報

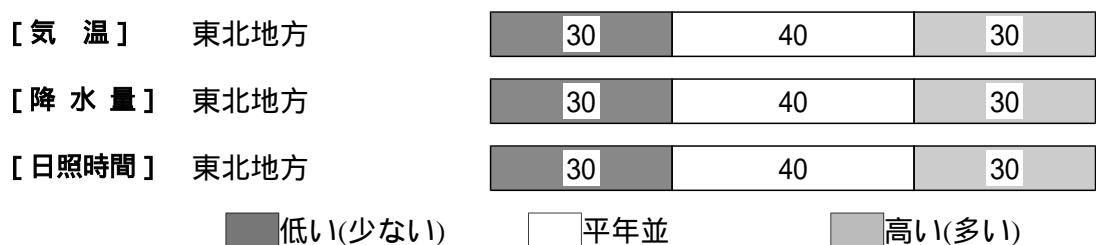
(7月1日から7月30日までの天候見通し)

平成18年6月30日
仙台管区気象台発表

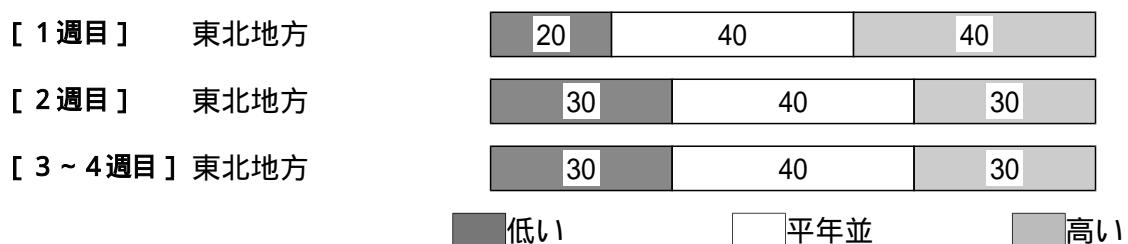
<予想される向こう1か月の天候>

前線や気圧の谷の影響で、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
向こう1か月の平均気温は東北地方で平年並、降水量は東北地方で平年並、日照時間は東北地方で平年並でしょう。
週別の気温は、1週目は東北地方で平年並か高い、2週目は東北地方で平年並、3～4週目は東北地方で平年並でしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 7月 1日(土)～7月30日(日)
1週目 : 7月 1日(土)～7月 7日(金)
2週目 : 7月 8日(土)～7月14日(金)
3～4週目 : 7月15日(土)～7月28日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は7月7日
3か月予報：7月25日(火) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	20.9	166.0	143.7	19.2	20.1	21.7
新庄	22.2	182.4	147.3	20.6	21.4	23.1
若松	23.3	158.7	160.8	21.7	22.6	24.1
深浦	21.2	141.6	172.7	19.4	20.4	22.2
青森	21.0	98.2	172.1	19.1	20.2	21.9
むつ	19.5	117.8	146.6	17.6	18.7	20.4
八戸	20.1	111.9	162.1	18.1	19.2	21.1
秋田	22.6	174.6	165.5	20.9	21.8	23.6
盛岡	21.6	161.6	138.8	20.0	20.9	22.5
宮古	19.8	136.4	141.8	18.0	19.1	20.8
酒田	23.0	181.2	172.6	21.3	22.1	24.0
山形	23.1	141.8	148.4	21.4	22.3	24.0
仙台	21.9	159.2	122.0	20.2	21.1	22.8
石巻	21.2	129.7	141.3	19.5	20.5	22.1
福島	23.4	144.9	127.6	21.7	22.7	24.3
白河	21.8	187.9	124.4	20.3	21.3	22.6
小名浜	21.6	125.4	145.8	20.1	21.0	22.4

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.2 ~ +0.6	86 ~ 113	93 ~ 108
東北日本海側	-0.3 ~ +0.5	82 ~ 118	89 ~ 108
東北太平洋側	-0.2 ~ +0.7	82 ~ 114	92 ~ 112

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.7 ~ +0.6	-0.8 ~ +0.7	-0.5 ~ +0.9
東北日本海側	-0.6 ~ +0.6	-0.7 ~ +0.5	-0.4 ~ +0.8
東北太平洋側	-0.9 ~ +0.6	-0.9 ~ +0.8	-0.5 ~ +1.0

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間ににおける各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成18年6月30日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(7月1日~7月30日):

前線や気圧の谷の影響で、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

6月22日発表の3か月予報では、7月の東北地方の気温を「平年並か低い」と予報しましたが、最新の資料から、7月は「平年並」となる可能性が大きいと考えられます。

1週目(7月1日~7月7日):

前線や気圧の谷の影響で曇りの日が多く、雨の日もあるでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

2週目(7月8日~7月14日):

前線や気圧の谷の影響で、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

3~4週目(7月15日~7月28日):

前線や気圧の谷の影響で、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

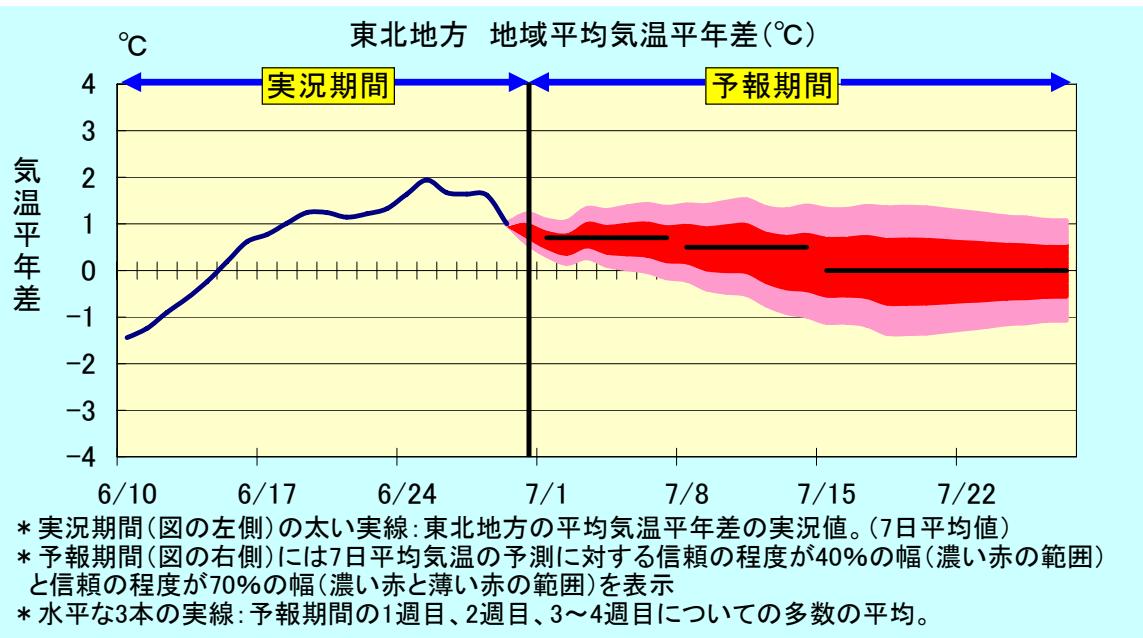
平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	12.8日	2.8日	2.7日	7.3日
東北太平洋側	11.1日	2.5日	2.4日	6.2日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目を「高い」、2週目、3~4週目を「平年並」と予測している。予報は、その他の資料から1週目の東北地方を「平年並か高い」とする。なお、数値予報の信頼度は小さい。

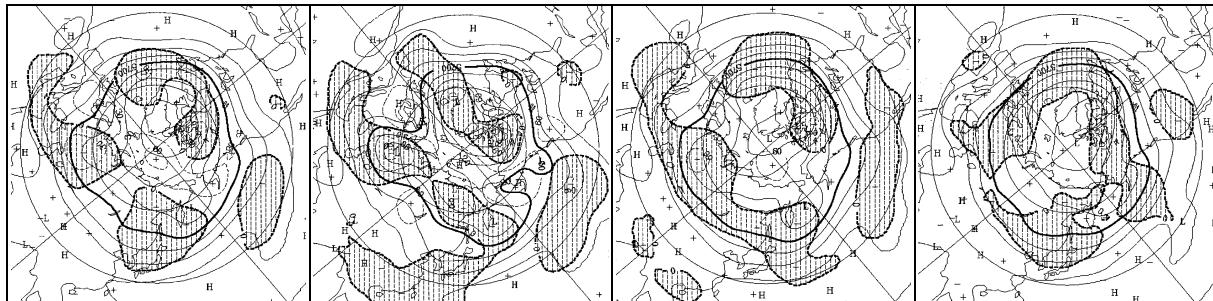


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、極付近が正偏差、北緯50～60度付近では負偏差となるところが多い。本州からシベリアにかけても負偏差。太平洋高気圧は日本の南海上で強く華南方面へ張り出す

1週目は、シベリアからカムチャッカ半島付近、本州から南海上、華南方面にかけては負偏差、バイカル湖付近から北海道にかけて正偏差。2週目は、シベリア南部からカムチャッカ半島付近にかけて帶状に負偏差が広がる。日本付近の偏西風はほぼ東西に流れる。太平洋高気圧は強く、華南方面へ張り出す。3～4週目は、北日本中心に負偏差。太平洋高気圧は引き続き華南方面へ張り出す。



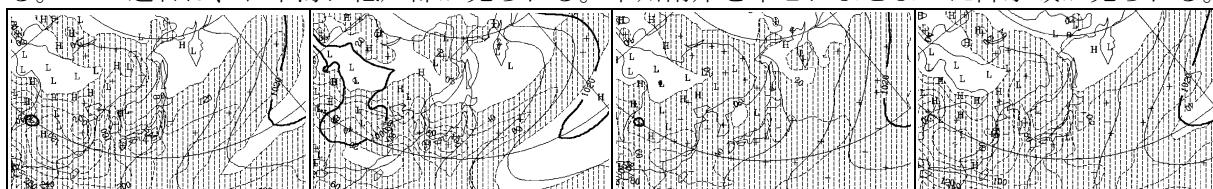
500 hPa 高度予想図（左から）1か月平均、1週目平均、2週目平均、3～4週目平均

実線：等高度線（間隔 60m）、点線：平年差（間隔は1か月 30m、週別 60m）、陰影部：負偏差域（一般に寒気に対応）

地上気圧と降水量：

月平均では、華南から本州南岸を中心にまとまった降水域が広がり、東北地方にもかかる。期間を通してオホーツク海高気圧は不明瞭。

1週目は、太平洋高気圧が日本の南海上へ張り出す。明瞭な降水域が華中から本州南岸に帶状に広がる。2週目は、まとまった降水域は見られないが、東北地方には40mm以上の降水域がかかる。3～4週目は、日本海に低圧部が見られる。本州南岸を中心にまとまった降水域が見られる。



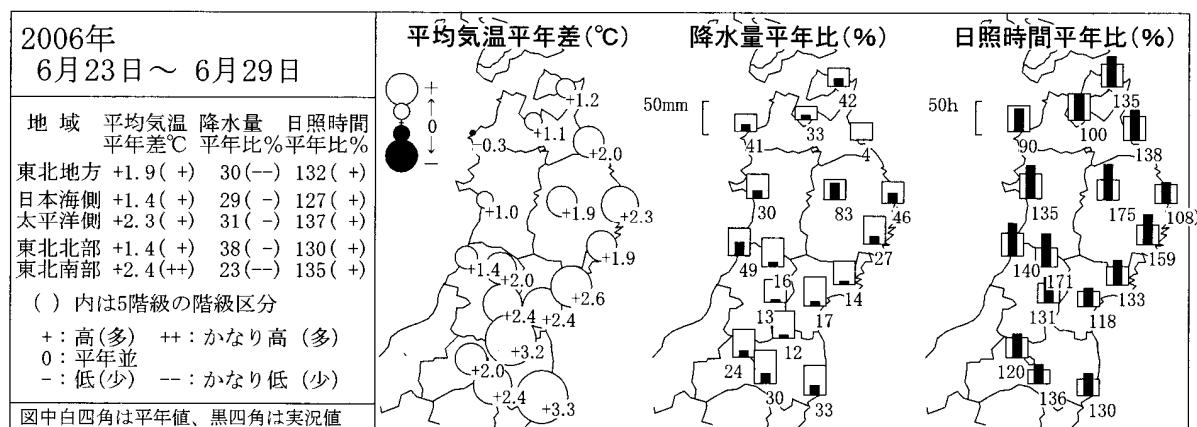
地上予想天気図（左から）1か月平均 1週目平均 2週目平均 3～4週目平均

実線：等圧線（間隔 4 hPa）、陰影部：降水域（1か月 80mm 以上、1週目・2週目 20mm 以上、3～4週目 40mm 以上）

4. 最近1週間（6月23日～6月29日）の天候の経過

この期間、梅雨前線が本州南岸に停滞して東北地方まで北上することはなかった。このため、晴れて気温が高くなる日が多くたが、たびたび上層に寒気が入ったため雷雨となる日が多くた。

平均気温は東北北部で高く、東北南部でかなり高い。降水量は東北北部で少なく、東北南部でかなり少ない。日照時間は東北地方が多い。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）